

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)		授業科目	国語表現
科目基礎情報						
科目番号	1A054		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教育		対象学年	1		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	精選 現代の国語：三省堂：9784385727608					
担当教員	田貝 和子					
到達目標						
☐ 論理的な文章を客観的に理解することができる。 ☐ 論理的な文章(論説や評論)の構成や展開を的確にとらえ、要約できる。 ☐ 自己の考えを論理的、客観的に表現するための基本的な能力を養うことができる。 ☐ 常用漢字の音訓を正しく使える。主な常用漢字が書ける。 ☐ 類義語・対義語を思考や表現に活用できる。 ☐ 社会生活で使われている故事成語・慣用句の意味や内容を説明できる。 ☐ 現代日本語の運用、語句の意味、常用漢字等の基礎的知識について理解を深めることができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	論理的な文章を客観的に理解することが十分にできる。		論理的な文章を客観的に理解することができる。		論理的な文章を客観的に理解することができない。	
評価項目2	論理的な文章(論説や評論)の構成や展開を的確にとらえ、要約することが十分にできる。		論理的な文章(論説や評論)の構成や展開を的確にとらえ、要約することができる。		論理的な文章(論説や評論)の構成や展開を的確にとらえ、要約することができない。	
評価項目3	現代日本語の運用、語句の意味、常用漢字等の基礎的知識について理解を深めることが十分にできる。		現代日本語の運用、語句の意味、常用漢字等の基礎的知識について理解を深めることができる。		現代日本語の運用、語句の意味、常用漢字等の基礎的知識について理解を深めることができない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	語彙・文法的事項を丁寧に確認しつつ、文章の展開に即して論旨を正確に把握し、論説内容に検討を加える。併せて、文章表現力の錬成も兼ねて「論旨の要旨」をまとめる作業を行う。					
授業の進め方・方法	1 学年の国語表現では、読むことを中心に行います。正確に読解することを通じて、考える力を身につけてください。それが、自分の考えを他人に正確に伝えるための表現力につながります。					
注意点	ノートを一冊用意してください。また、国語辞典も常に机の上に置き、辞書を引く習慣をつけてください。なお、提出物、授業態度に関してもしっかりチェックします。					
授業の属性・履修上の区分						
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス		社会で使用される言葉を始め広く日本語を習得し、その意味や用法を理解できる。また、それらを適切に用い、社会的コミュニケーションとして実践できる。	
		2週	口語文法		社会で使用される言葉を始め広く日本語を習得し、その意味や用法を理解できる。また、それらを適切に用い、社会的コミュニケーションとして実践できる。	
		3週	話す・聞くーぐうぜん、うたがう、読書のススメ 1		読書習慣の形成をとおして感受性を培い、新たな言葉やものの見方を習得して自らの表現の向上に生かすことができる。	
		4週	話す・聞くーぐうぜん、うたがう、読書のススメ 2		文章を客観的に理解し、人間・社会・自然などについて考えを深め、広げることができる。	
		5週	書くー水の東西 1		比較という方法を理解し、文化について考えることができる。	
		6週	書くー水の東西 2		文章を客観的に理解し、人間・社会・自然などについて考えを深め、広げることができる。	
		7週	書くー水の東西 3		現代日本語の運用、語句の意味、常用漢字、熟語の構成、ことわざ、慣用句、同音同訓異義語、単位呼称、対義語と類義語等の基礎的知識についての理解を深め、その特徴を把握できる。また、それらの知識を適切に活用して表現できる。	
		8週	読むー情報と身体 1		情報と身体の関係に着目してインターネット社会を分析することができる。	
	2ndQ	9週	読むー情報と身体 2		読書習慣の形成をとおして感受性を培い、新たな言葉やものの見方を習得して自らの表現の向上に生かすことができる。	
		10週	読むー情報と身体 3		論理的な文章を読み、論理の構成や展開の把握にもとづいて論旨を客観的に理解し、要約し、意見を表すことができる。また、論理的な文章の代表的構成法を理解できる。	
		11週	読むー情報と身体 4		現代日本語の運用、語句の意味、常用漢字、熟語の構成、ことわざ、慣用句、同音同訓異義語、単位呼称、対義語と類義語等の基礎的知識についての理解を深め、その特徴を把握できる。また、それらの知識を適切に活用して表現できる。	

後期	3rdQ	12週	書く二 アガルとノボル 1	用例を検討して言葉の意味の違いを考えることができる。			
		13週	書く二 アガルとノボル 2	文章を客観的に理解し、人間・社会・自然などについて考えを深め、広げることができる。			
		14週	書く二 アガルとノボル 3	読書習慣の形成をとおして感受性を培い、新たな言葉やものの見方を習得して自らの表現の向上に生かすことができる。			
		15週	書く二 アガルとノボル 4	現代日本語の運用、語句の意味、常用漢字、熟語の構成、ことわざ、慣用句、同音同訓異義語、単位呼称、対義語と類義語等の基礎的知識についての理解を深め、その特徴を把握できる。また、それらの知識を適切に活用して表現できる。			
		16週	前期到達目標の確認	社会で使用する言葉を始め広く日本語を習得し、その意味や用法を理解できる。また、それらを適切に用い、社会的コミュニケーションとして実践できる。			
	4thQ	1週	読む二 ありのままの世界は見えない 1	「見る」とはどういうことか、事例をもとに考察することができる。			
		2週	読む二 ありのままの世界は見えない 2	読書習慣の形成をとおして感受性を培い、新たな言葉やものの見方を習得して自らの表現の向上に生かすことができる。			
		3週	読む二 ありのままの世界は見えない 3	論理的な文章を読み、論理の構成や展開の把握にもとづいて論旨を客観的に理解し、要約し、意見を表すことができる。また、論理的な文章の代表的構成法を理解できる。			
		4週	読む二 ありのままの世界は見えない 4	現代日本語の運用、語句の意味、常用漢字、熟語の構成、ことわざ、慣用句、同音同訓異義語、単位呼称、対義語と類義語等の基礎的知識についての理解を深め、その特徴を把握できる。また、それらの知識を適切に活用して表現できる。			
		5週	書く三 人間にできて機械にできないこと 1	機械の認識と人間の認識の違いを考えることができる。			
		6週	書く三 人間にできて機械にできないこと 2	論理的な文章を読み、論理の構成や展開の把握にもとづいて論旨を客観的に理解し、要約し、意見を表すことができる。また、論理的な文章の代表的構成法を理解できる。			
		7週	書く三 人間にできて機械にできないこと 3	現代日本語の運用、語句の意味、常用漢字、熟語の構成、ことわざ、慣用句、同音同訓異義語、単位呼称、対義語と類義語等の基礎的知識についての理解を深め、その特徴を把握できる。また、それらの知識を適切に活用して表現できる。			
		8週	書く四 命は誰のものなのか 1	「生命の尊さ」について考えを深めることができる。			
		9週	書く四 命は誰のものなのか 2	文章を客観的に理解し、人間・社会・自然などについて考えを深め、広げることができる。			
		10週	書く四 命は誰のものなのか 3	論理的な文章を読み、論理の構成や展開の把握にもとづいて論旨を客観的に理解し、要約し、意見を表すことができる。また、論理的な文章の代表的構成法を理解できる。			
		11週	書く四 命は誰のものなのか 4	現代日本語の運用、語句の意味、常用漢字、熟語の構成、ことわざ、慣用句、同音同訓異義語、単位呼称、対義語と類義語等の基礎的知識についての理解を深め、その特徴を把握できる。また、それらの知識を適切に活用して表現できる。			
12週	読む三 グローバル化の光と影 1	グローバル化する社会とどう向き合うかを考えることができる。					
13週	読む三 グローバル化の光と影 2	読書習慣の形成をとおして感受性を培い、新たな言葉やものの見方を習得して自らの表現の向上に生かすことができる。					
14週	読む三 グローバル化の光と影 3	論理的な文章を読み、論理の構成や展開の把握にもとづいて論旨を客観的に理解し、要約し、意見を表すことができる。また、論理的な文章の代表的構成法を理解できる。					
15週	読む三 グローバル化の光と影 4	現代日本語の運用、語句の意味、常用漢字、熟語の構成、ことわざ、慣用句、同音同訓異義語、単位呼称、対義語と類義語等の基礎的知識についての理解を深め、その特徴を把握できる。また、それらの知識を適切に活用して表現できる。					
16週	後期到達目標の確認	社会で使用する言葉を始め広く日本語を習得し、その意味や用法を理解できる。また、それらを適切に用い、社会的コミュニケーションとして実践できる。					
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	60	0	0	0	0	20	80
専門的能力	10	0	0	0	0	0	10
分野横断的能力	10	0	0	0	0	0	10